

# ぐんま幼児教育センターだより

第39号 令和3年3月

## 今年度の研修を振り返って

令和2年度の研修が終了しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、上期の研修講座やタヤけ保育研修会が中止となり、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。センターでの集合研修は、9月以降、ソーシャルディスタンスを保ち、消毒・換気を徹底して行ってきました。受講者の皆様にも健康状態申告書の提出やこまめな手指消毒などご協力をいただき、感謝申し上げます。



令和2年度

## 研修講座 実施報告

今年度は、次の3講座を回数を減らして実施しました。また、1～2月の講座は「センター研修（集合研修）」と「オンライン研修」のどちらかを選択して受講していただきました。

### 幼稚園等5年経験者研修

実施日数：1日

- ・センター研修

#### <12/9 受講者の声>

- ・感染予防をしっかりとしていただけだったので、安心して受講できた。
- ・研修の機会が少なくなってきたので、研修を実施してもらいありがたかった。
- ・他の受講者と協議や情報交換を行うことができてよかった。

### 幼稚園等新規採用教員研修

実施日数：5日

- ・センター研修（1～4日目）
- ・センター研修・オンライン研修（5日目）

#### <1/20 受講者の声>

- ・児童虐待や児童相談所について話を聞くことができてよかった。
- ・指導要録の書き方を演習を通して行うことができたので、分かりやすかった。
- ・YouTube配信のように、後で見返すことができるとよい。

### 幼稚園等3年目経験者研修

実施日数：1日

- ・センター研修・オンライン研修

#### <2/10 受講者の声>

- ・教育要領解説を読み返すことで基本に立ち返ることができた。
- ・保護者対応や特別支援で悩んでいたので学べてよかった。今後に生かしたい。
- ・生活の中で音を楽しむことの意味が分かったので、今後実践していきたい。

令和3年度

## 研修講座 予定



### <研修方法>

#### 「センター研修」（集合研修）

- ・受講者が総合教育センターに集合して行う研修。（講師が会場で対面で講義する場合とオンラインで講義する場合がある）

#### 「オンライン研修」

- ・受講者は所属園等でZoomやYouTube等を活用して受講する研修。



幼児教育センターが担当する講座は

- 「センター研修」「オンライン研修」のどちらかを選択して受講できます。
- 申込後、どちらを選択するか、伺います。

※「講座案内」では、研修形態は「集合」と記されています。



### <今年度中止となった講座について>

今年度中止となった、次の2講座に、お申込みいただいた方で、来年度受講を希望する方は、受講可能ですので、来年度お申込みください。

- 新任幼稚園等園長研修
- 新任幼稚園等副園長・教頭研修

幼児教育研修講座は、今年度行う予定だった内容（腹話術）を予定しています。



令和 2年度

# 夕やけ保育研修会 実施報告

今年度は、7月～9月までの6回の研修が中止となり、以下の4回の実施となりました。榛東村、太田市の教育委員会の皆様に会場借用や運営等において大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 幼児期の教育と小学校教育の接続 (11/25)

会場：榛東村役場（集合研修）

講師：群馬パース大学福祉専門学校 副校長 田子 文子 氏

### <受講者の声>

- ・つなぐということが感じ取れる年齢ごとの事例で、たいへん参考になった。
- ・日々の保育を振り返る場面をたくさんいただいたように感じた。
- ・常に子供たちが何を面白がっているかを頭に置き保育にあたりたいと思う。



## 気になる幼児の理解と支援 (11/30)

会場：太田市九合行政センター（集合研修）

講師：anomira代表

作業療法士 北爪 浩美 氏

### <受講者の声>

- ・集団場面での対応はとても参考になった。
- ・その子の背景を知ることの大切さ、成功体験の必要性をととても感じた。
- ・子供一人一人と向き合い、適切な支援を心掛けたいと改めて思った。



## 先生方のためのヨガ講座 (12/3)

会場：総合教育センター（センター研修）

講師：高崎健康福祉大学

准教授 山西 加織 氏

### <受講者の声>

- ・体を暖めることができ、体も心もリラックスできた。呼吸方法をもっと学びたい。
- ・自分を見つめ直し、ストレスの発散ができた。日常生活にも取り入れたい。
- ・心と体のメンテナンスができて気持ちよかった。



## 特別講演会 子どもと過ごした2020年 ～迷い・工夫・発見・希望～ (12/24)

研修形態：オンライン研修

講師：お茶の水女子大学 教授

文京区立お茶の水女子大学こども園

園長 宮里 暁美 氏

### <受講者の声>

- ・楽しい雰囲気で行われ、あっという間だった。
- ・「その子の気持ちに目を向ける」「子どもが始めたことを肯定する」「ずっと気に掛ける」など、保育において大切にしたいことをたくさん教えていただいた。
- ・コロナ禍において研修がままならない中、中央の先生の貴重なお話を聞くことができ、大変ありがたかった。



特別講演会では、初めてZoomを使ったオンライン研修を行いました。コロナ禍の影響で、直前にオンライン研修に変更したため、そのお知らせは、お申し込みいただいた方々のみとさせていただきます。初めてのことで、行き届かないところもあったかと思えます。今後は、オンライン研修によりスムーズ対応できるよう、また研修内容の充実に向けて、幼児教育センターも学び続けていきたいと思えます。

# おわび



今年度は、東吾妻町、みなかみ町、玉村町、高崎市、館林市での研修が中止となってしまいました。お申し込みいただいていた皆様、また、各市町村の教育委員会の皆様、大変申し訳ありませんでした。コロナが収束し、また各地域で顔を合わせて研修会が行える日が来ることを願ってやみません。

今後も、皆様に参加しやすく、実りある研修となるように、オンライン研修を含め、研修の改善を図っていききたいと思います。幼児教育センター職員一同、頑張っていきたいと思いますので、来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和 3年度

# 夕やけ保育研修会 予定



# おしらせ



来年度の夕やけ保育研修会の詳細については、4月になりましたらお知らせいたします。お楽しみに！



特別研修員の研究内容等は、総合教育センターのWebページに掲載される予定です。

## 友達を意識しながら楽しく園生活を送るようになる幼児の育成 — 観察や記録写真、教師間の情報等を基にした幼児理解を通して —

特別研修員 幼児教育 阿久津 智美（幼稚園教諭）



### 幼児の実態

- ・様々なことへ興味・関心を抱いていたり、自分の好きな遊びに集中して取り組んだりする幼児が多い。
- ・自分の思い通りにならないことがあったり、友達に思いを伝えたいが伝わらなかったりする経験をしている。

### 教師の願い

- ・周囲の友達に目を向けてほしい。
- ・友達にも思いがあることに気付いてほしい。
- ・自分の思いを、相手に分かるように伝えられるようになってほしい。



### 手立て1 幼児理解のための情報収集（保育中の観察・写真、他の教師等からの情報）

- ・情報収集の視点：幼児が何に関心を抱いているのか、何をおもしろいと感じているのか
- ・情報収集の場：保育中、毎日の保育終了後

### 手立て2 収集した情報の記録と考察

- ・収集した情報 → 日案や個別の記録簿等に記録・整理し、考察する
- ・考察 → 翌日の環境の構成を工夫する

#### 情報収集

A児は、自分の思いや考えをもっている。困ったときには、教師を頼ることが多い。（観察・教師間の情報）

#### 考察

自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、折り合いを付ける経験をしてほしい。そのために、友達との関わりをつなぐ援助が必要！



#### 情報収集

D児は、一人で遊ぶことが多く、教師との関わりを好む。（観察・写真・教師間の情報）

#### 考察

教師と関わることで、気持ちが安定することが多い。そのために、教師との信頼関係の基、友達との関わりがもてるような援助が必要！



#### 事例1 カッコいいギターを作りたい

先生、どうやったら、輪ゴムが取れないように付けられるかな。



B児に教えてもらおうか。

ゴムが付かないんだよ。



ここを、テープで止めればいいんじゃない。

やってみるよ。教えてくれてありがとう！

#### その日の学級での振り返りの時間

A児：輪ゴムの付け方を教えてもらえて嬉しかった。

C児：ギター、かっこよかった！



A児は、自分が最後まで作り上げたことを認められたり、友達の優しさに触れたりすることが、友達と関わることの楽しさを感じることができた。

#### 事例2 段ボールロボットに、僕もなりた

段ボールで、何をしようかな。



E児の遊んでいることに興味をもったのかな。段ボールを渡してみよう。

僕も段ボールロボになったよ。一緒に嬉しいな。



#### その後の様子

片付けの時間に、D児は、E児が何をしているか気にしていた。E児は当番のため、給食の準備をしていた。D児：給食のとき、隣に座ってもいい？ E児：いいよ！



D児は、友達と一緒に段ボールロボになって遊んだことが楽しかったことから、友達を意識するようになってきた。

### 成果

- 写真や他の教師からの情報によって、保育中には把握できなかった幼児の姿の意味や内面を知ることができた。
- 収集した情報を日案や記録簿等に整理し考察したことで、より細かく幼児の実態把握ができ、幼児の興味・関心を探ったり変容を見取ったりするために有効であった。

### 課題

- 情報収集と他の教師との連携を密に図るための時間や場の確保が必要である。また、収集した情報に基づいた幼児の見取りや環境の構成、援助が適切であったか、教師間で考察や実践結果について共有していけるとよい。

# 学年間の接続を意識した3歳児保育において、 安心感をもって自己発揮する幼児を育てる — 幼児のよさや可能性の見取りとそれを生かす環境の構成を通して —

特別研修員 幼児教育 村上 由紀恵(幼稚園教諭)

## 【幼児の実態】

初めての集団生活のため、不安をもっている。登園時に泣いたり、何をしたいかわからなかったりして、戸惑う幼児や何も言えずにいる幼児もいる。

## 【教師の願い】

幼稚園の楽しさを知り、教師や友達と一緒に伸び伸びと好きな遊びを楽しんでほしい。

## 【園における学年間の接続の課題】

進級時に幼児が戸惑いなく新しい担任やクラスに慣れるために、幼児の遊びの様子や成長の姿などの情報交換を年度末に行っているが、日頃から学年間で伝え合う必要がある。

## 【手立て1】

- ・「幼児期の終わりまでに育てたい姿」(以下「10の姿」)を視点にした幼児のよさ(😊)や可能性(★)の見取り
- ・職員や家庭との情報の共有

- (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え
- (10)豊かな感性と表現 **見取りの視点「10の姿」** (5)社会生活との関わり
- (9)言葉による伝え合い (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (7)自然との関わり・生命尊重 (6)思考力の芽生え

## 【手立て2】手立て1で見取った一人一人のよさや可能性を生かす環境の構成

### ～A児のこれまでの姿～

なかなか慣れず、8、9月頃は登園を渋っていた。初めての活動は泣いて不安がる。登園した日は、クラスでは自分のやりたい遊びを見付けてよく遊び、周りの様子や物事をよく見ている。

### 事例1 運動会に向けての活動「かけっこ」

A児はかけっこでスタートラインに立ったが、名前を呼ばれても返事をせず、スタートの合図があっても走らず、担任と一緒に黙って友達が走る様子を見ていた。

😊 **10の姿(1)** 体を動かす活動に参加し、走ろうとする気持ちはある。  
😊 **10の姿(2)** 泣かずにスタートラインに立てたことは自立心の面で成長している。

A児のこれまでの姿から、無理に走らせない方がよいと判断し、A児の側にいた。

★ **10の姿(9)** 今後は自分の気持ちを言葉にできるようになるとよい。

A児は、走り終わった友達と一緒に5歳児に手をつないでもらいベンチに行き、4歳児が走る様子を真剣な表情で見ている。

😊 **10の姿(5)** 運動会の雰囲気を感じ取っているのではないかと。

😊 **10の姿(1)** クラスの友達と過ごす安心感も持っている。  
😊 **10の姿(2)** 担任から離れても友達と一緒にいられた。

友達が4歳児の返事に反応して笑っているのを嬉しそうにニコニコしながら見ている。

😊 **10の姿(3)** 言葉は発していなくても友達を通して感情体験をしている。  
😊 **10の姿(5)** 運動会の雰囲気を楽しんでいるのかもしれない。

★ 今後、経験を重ねていけば、友達と一緒に走るだろう。

その日の幼児の様子や教師の関わりを職員や保護者に伝えた。

### ～A児のその後の姿～

思い思いの遊びでクラスの友達と自ら関わり、一緒にかけっこを楽しむようになった。運動会当日は、教師が抱っこして走ったが、運動会終了時、A児は「楽しかった!」と言っていた。

A児にとって「楽しかった運動会」になった。

### ～B児のこれまでの姿～

初めての集団生活で、友達との関わり方が分からないのか、言葉でうまく伝えられず、教師が間に入ってやりとりすることが多い。好奇心旺盛で新しいことに「僕もやりたい」と寄ってくる。自然の変化などの気付きや発見が早い。

### 事例2 思い思いの遊び「ドングリを穫りたい」

B児は友達が持っていたドングリが欲しくて友達に聞き、クヌギの木の下に見付けに行った。

B児は、「あそこに登ったら穫れるかな」と、B児はロープにしがみつき、クヌギの木に登ろうとした。

長い時間必死にしがみついたが、枝まで届かず降りた。

ロープに登りたい幼児が数人、並んでいた。

B児は順番を待ちきれずに「登りたい」と言ってきた。

ロープに登っている場面

### ～B児の次の日の姿～

木に登って穫ろうと挑戦したが穫れないことに気付いた。友達が教えてくれた方法でドングリを穫ることができた。

😊 **10の姿(2)** 自分から興味を示して関わっている。  
😊 **10の姿(7)** 自然物に興味がある。  
😊 **10の姿(3)(9)** ドングリがどこにあるのか言葉で友達に聞くことができた。

😊 **10の姿(6)** ドングリを穫る方法を自分で考えた。

😊 **10の姿(2)** 自分で考えたことを試している。

😊 **10の姿(1)(2)** ドングリを穫るために全身を使って諦めずに登っている。

挑戦する気持ちを受け止め、一緒に関わり、登れるように支えた。

手を離さずに高い所まで登れたことを認め、教師の嬉しい気持ちを伝えた。

★ **10の姿(3)** ロープに登りたい幼児が並んでいることに気付き、友達の気持ちが分かってくるだろう。

😊 **10の姿(4)** 順番にするなど、今後、友達と関わる中で気付いていこう。

😊 **10の姿(1)** 自分のやりたい気持ちを表現している。

😊 **10の姿(2)** ドングリを手に入れるまで、諦めない気持ちがある。

「ドングリが穫れて、嬉しかった～」とつぶやいた。

## 成果(○)と課題(●)

- 「10の姿」を念頭におきながら、よさや可能性の見取りをしたことで、幼児を多面的に捉え内面を理解することができた。幼児は自分の思いを出せるようになり、好きな遊びに自ら関わって遊ぶ姿が見られるようになった。
- 日々の幼児の様子や出来事を職員間や保護者と情報共有したことで、互いの思いを理解し合うことができ信頼関係につながった。それにより幼児は、教師や友達と一緒に安心して遊んだり、生活したりすることができるようになった。
- 今後は、全職員で幼児一人一人を「10の姿」を視点に多面的に見取り、カンファレンスをするための時間を確保する必要がある。

連絡先

群馬県総合教育センター 幼児教育センター

〒372-0031 伊勢崎市今泉町1-233-2

e-mail: youji@edu-g.gsn.ed.jp

TEL: 0270-26-9203

FAX: 0270-26-9222